



かしま

HOT 通信

3月号 Vol.386

令和7年(2025年)3月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団法人 養生会〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jpホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、

QRコードを読み取り、アクセスしてください。

PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



1/2

巻頭特集

- ① 専攻医 退任のご挨拶 - 桜庭省吾 先生 -
- ② 第100回常磐医学会 参加報告

2025ふくしま
病院合同説明会に参加しました!

3

コラム ひんがら目(213)
『蓄熱暖房機の故障
修理しにくくなった電化製品』
呼吸器科 部長 山根 喜男

4

ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
医療技術部ホームページを開設しました!
かしま荘通信

股関節の健康講座

参加費
無料

開催のお知らせ

股関節に関する疑問や心配な点などを
整形外科医師に質問できます。

日時

令和7年 3月29日(土)
10:30~12:35

受付時間 10:00~10:25

場所

「LATOV(ラトブ)」6階
いわき産業創造館『企画展示ホール』
P 駐車場: 2時間無料(超過分は自己負担となります。)

定員

先着 200 名様

申込
方法3月10日(月)より
電話 0246-58-8010(代) や FAX.0246-58-8088
または、病院ホームページよりお申し込みください。

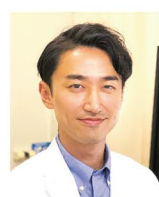
講師

かしま病院 整形外科

石井 聖也 医師

磐城高校出身

【専門領域】

人工関節置換術、
最小侵襲手術(MIS)

巻頭特集

- ① 専攻医 退任のご挨拶 - 桜庭 省吾 先生 -
- ② 第100回常磐医学会 参加報告

総合診療科の桜庭省吾です。
この度2025年3月31日を
もちまして異動することとなり
ました。福島県立医科大学医学
部総合内科・総合診療学講座の
専攻医として、1年間勤務させ
ていただき患者様や院内外の皆
様には大変お世話になりました。
この場を借りて心より御礼
申し上げます。

当初、急性期医療から在宅医
療など様々な環境で臨床のス
キルを身に付けたいとおもひ
かしま病院での研修を開始しま
した。外来、病棟、救急、訪問
診療などの場で先生方、医療ス
タッフの皆様、そして患者様に
も多くのことを学ばせていた
きました。

振り返ってみると患者様の抱
えるすべての健康上の問題を、

時には家族・生活背景までま
ごと診る家庭医を漠然ととらえ
ていた部分もありました。日々
の研修で家庭医療の学びと実践
を通じて、また病院の取り組み
にも触れ、見識を広げることが
できたと思います。1年という
短い間でしたが非常に密度の濃
い時間を過ごすことができました。
至らない点も多々ありまし
たが、いつも皆様には温かく接
していただきありがとうございます。
かしま病院での学びを活かし
て、新任地でも地域医療に貢献
できるよう日々精進してまいり
ます。

専攻医 退任のご挨拶

1

令

和6年4月から当院総合診療科で専攻医として
勤務をした、桜庭省吾先生が令和7年3月いっ
ぱいで当院での研修を修了し、次の勤務地へ異動と
なります。桜庭先生から退任の挨拶を頂きました
のでご紹介します。



総合診療科

桜庭 省吾 先生

Seigo Sakuraba



2 第100回 常磐医学会 参加報告

令 和7年2月8日(土) いわきワシントンホテルにて、
第100回常磐医学会が開催されました。

常磐医学会は、いわき市内の医師や専門職が一堂に集まり、事例発表や取り組みの報告などを通して知見を共有し、いわき市の医療を発展させていくために毎年開催されています。今回は、当院から4名が演者として発表しましたのでご報告します。



看護部 青木 美枝子



看護部 須田 瞳



診療部 中山 文枝



診療部 石井 敦

演題
「バレニクリン出荷停止期間中にやむなくニコチン置換療法併用を余儀なくされた禁煙外来症例の禁煙成功に関する検討」
看護部 須田 瞳

当院の禁煙外来についての発表を行いました。演題を見ると「難しい…」と感じますが、要旨は、「従来使用していたバレニクリンという禁煙飲み薬が出荷されなくなり、ニコチンパッチ(貼り薬)の治療のみに切り替えて外来を続けてきた中で、両者の禁煙成功率の比較を行ったところ、一般的に成功率が高いとされる飲み薬に負けず劣らず、貼り薬の治療を受けた方の成功率が高かった。その背景には、薬の力だけでなく受診された方の禁煙意欲を支える医師や看護師のサポート(関わり方やそのための体制など)が大きく関与する」という内容です。今後も禁煙に関わるスタッフ同士が相談しあい、受診者の個性性に合わせた禁煙支援に取り組んでいきます。

演題
「口腔アセスメント(OHAT-J)導入による口腔内評価統一に向けた取り組み」
看護部 青木 美枝子

口腔ケアは歯や口腔内の疾患と誤嚥性肺炎を予防し、口腔の機能

を維持することにより生活の質の向上に繋がります。口腔ケア時の観察の視点と評価方法の統一を図るため、OHAT-J(口腔アセスメントシート)を導入しました。

OHAT-J(評価項目は口唇、舌、歯肉、粘膜、唾液、残存歯、義歯、口腔清掃、歯痛の8項目、スコアは健全0、やや不良1、病的2の3段階)に関する勉強会を行い、電子カルテでの体制整備後に実施しました。対象者スコアの変化をみると口唇、舌、唾液、口腔清掃の項目が改善していました。OHAT-Jを導入し観察の視点を統一することで継続的ケアの提供に繋がることができました。今後、看護ケアの質向上に努めていきたいと思っています。

演題
「持続可能な在宅看取り体制構築への取り組み」
診療部 石井 敦

超高齢社会(多死社会)に突入した本邦では、在宅看取りの需要が増していますが、対応している医療機関は限られています。

常磐医学会では、チーム制、看取り当番制、在宅カンファレンス導入などで、診療時間外の医師の負担を低減しつつ、高まる在宅看取り需要に対応している当院の取り組みを発表しました。

今後、参画する医師数が増えれば、医師1人あたりの負担を更に低減することが見込めますし、同

様のシステムを各エリアの病院を中心に稼働すれば、広域な自治体でも全エリアをカバーすることができそうです。殊に、当院の取り組みが「いわき在宅医療ネットワーク」充実のためのモデルになることを期待します。

今回は第100回記念ということで、表彰対象外演題として当院の中山文枝医師が、これまでの常磐医学会の歩みについて発表しました。

演題
「第100回常磐医学会開催と未来へ」
診療部 中山 文枝

常磐医学会は、戦後の石炭産業を支えた常磐炭鉱病院の医学研究会を起源とし、過酷な環境で働く炭鉱労働者の健康を守るために発展しました。

東北大学との連携により、熱中症や塵肺などの研究が進み、地域医療の礎を築きました。時代とともに産業医学から地域医療へと活動を広げ、現在はいわき市医師会が事務局となり多職種連携や若手医療人材育成に力を入れて運営しています。

感染流行時期にはオンライン開催や表彰制度の導入など、変化に適応しながら発展を続け、今後も地域医療の向上に貢献し続けます。



2025 ふくしま 病院合同説明会に参加しました！

2月15日(土)、ビックパレットふくしまにて開催されました「2025 ふくしま病院合同説明会」に参加しました！説明会には福島県内 30 以上の医療機関様、160名ほどの就活生が参加し、会場は活気が溢れていました。

当院からは看護部、リハビリテーション部、臨床検査科、広報企画室の計8名のスタッフで参加しました。

30秒間の病院PRタイムでは、今年も面倒見の良い教育担当と先輩看護師の2人が担当し、かしま病院の働きやすさの魅力を最大限にアピールしました。

また、訪問ブースでは、看護学生や理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師などを目指す多くの学生さんに向けて、仕事の内容や教育体制、働く環境について説明しました。

当院のブースにお越しいただいた学生みなさん、ありがとうございました！今回の説明会を通して病院の魅力を知り、将来を決めるきっかけになりましたら幸いです。

かしま病院では、就職を考えている方へ向けた病院見学を随時行っています。ぜひ、一度見学にお越しいただき、職場の雰囲気を感じてみてください。

病院見学に関するお問い合わせ

かしま病院 人事課  0246-58-8010 (代表)



蓄熱暖房機の故障 修理しにくくなった電化製品

冬の寒い日に蓄熱暖房機のファンを回したところ、黄色ランプが点灯しファンが回り始めましたが、しばらくして蓄熱の緑ランプと黄色ランプが同時に点滅し始めました。SOSのようです。深夜に蓄熱し翌日に放熱して20年間我が家を暖かくしてくれましたが、とうとう故障したようです。翌日は蓄熱されず、やむを得ずエアコンを使用しましたが、熱風が頭上から降り注ぐので調子を崩しました。ハウスメーカに連絡し修理をお願いしましたがメカには詳しくないようで点検すらしてくれません。取り扱っていた会社はなくなり、部品もないので修理不能とのこと。ドイツの会社から取り寄せることはできるが日数はかかるということです。

執念深く操作パネルをあれこれいじっているうちに追い焚きのボタンを押したところ、けなげにも蓄熱の赤ランプが点灯し蓄熱が再開しました。

本体の故障ではなく操作パネルの不具合のようです。老朽化した家電製品の取り扱い扱いは、高齢者の診療と相通じるところがあります。知恵と手を尽くすと回復しますが、しばしば気まぐれな異変を起こします。回復しましたが、またファンを回したところエンジンストールしていました。ランプが点滅し機能不全になりますが、翌朝に点滅が終了した頃追い焚きをするともまた蓄熱が可能になりました。

暖は取れるのですが、今度は蓄熱にブレーキが掛からなくなり過熱して熱くなり、新たな心配が起きました。2日間経過すると手で触れられないくらい熱くなりました。こんな時にはまたファンを回します。ランプが点滅して蓄熱不能に陥ります。



す。そして、翌日にランプが消えた後、追い焚きです。生命力はありそうですが風前の灯火のようでもあります。

原因は本体にあるのではなく操作パネルのトラブルのように見えます。ところが、こんな簡単な電子部門が外部の人間には修復できません。使い捨て文化、修理よりは買い替えるの社会は、すべてのメカニズムをブラックボックス化しました。

20年前には深夜電力割引があり蓄熱暖房が推奨されましたが、最近では割引がなくなり、減価ゆく運命にあるようです。しかし、老夫婦には安全で快適な暖房でした。石油ストーブは火事の心配と灯油のにおいがあるので蓄熱暖房は捨てられません。

だましだまし使ってた役立ってはいませんが、いつ果てるとも知れませんが。蓄熱暖房の寿命と老夫婦の寿命を天秤にかけ、電気代高騰の折とはいえ、今が買い替えの時期だと判断しました。

注文した後も、まだ使えるという未練と、取り換え工事の日まで持ちこたえてくれという願望が交錯して心が揺らぎます。

そもそも本体がまだ使用可能なのにコンピュータ制御部門の不具合のためには、大量生産、薄利多売の世の中では、壊れた時には買い替えた方が安いのですよと言われます。電気製品も本体よりはコネクタなどが壊れやすく、頻回のバージョンアップも影響して商品の寿命は短くなり、使用可能なものもふくめて大量の廃棄物が発生しています。

AIは前を向いて進みますが後ろを振り返りません。道路陥没などに見られるように、社会のインフラも危うくなっています。ブラックボックスの中で生きています。我々は、デジタルファシズムに羽交い絞めにされつつあります。

(呼吸器科部長 山根 喜男)

ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医療育成への挑戦 ～

第181回 総合診療医は何でも知っている必要があるのか?

石井 敦 病院長



「将来 自分は何科の医師になるべきか?」悩む医学生からの代表的な質問に回答します。

Q

総合診療医は全診療科を網羅する膨大な知識が必要ですか?

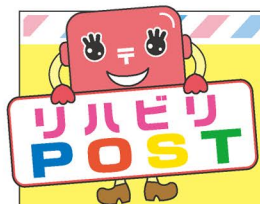
A

膨大な知識や技術を身につけている超人レベルの総合診療医がいるのも事実です。しかし、家庭医療学の大家、Ian R. McWhinney 先生は著書の中で「総合診療医の知識は、その他の専門医の知識と同様に選択的なものである」と述べています。例えばくも膜下出血の場合、総合診療医に求められる能力は、頭痛を訴える（時に頭痛すら訴えない）多くの患者の中から、くも膜下出血が否定できない患者さんを抽出して脳神経外科医に紹介でき、かつ、くも膜下出血ではない大多数の患者さんの問題解決に必要な知識や技術を有することです。一方、脳神経外科医に求められる能力は、くも膜下出血を確定診断し治療する技術です。総合診療医も、その他の専門医も、自分が活動する場で必要とされる知識や技術を取捨選択しながら、身につけていくことが求められます。疾患に関しても、総合診療医であれば臓器横断的で遭遇することの多い高頻度な疾患を中心とした知識や、それに対応する技術を身につける必要があります。一方、その他の専門医であれば対象とする疾病に関連

した知識や技術を中心に身につけなければなりません。自分が活動する診療現場に必要な知識や技術を身に付けるという点において、総合診療医も、その他の専門医も大きく変わりはありません。つまり、総合診療医だからといって、その他の専門医と比べて必要とされる知識の量が特別に多いというわけではありません。

ここで、どのようにして総合診療医が知識や技術を磨いていくのかについて補足すると、総合診療医は「省察的実践家」とあるといわれます。では「省察的実践家」とは何でしょうか。総合診療医は幅広く多種多様な健康問題に対応することが求められるため、これまでに自分が経験したことのない場面に遭遇することが多いです。しかし、予期せぬ場面であっても、準備不足だからとか、経験したことがないからといって、簡単に診療を拒否することはできません。これまでの経験や知識を総動員しつつ、インターネット検索や本、もしくは他の医師からのアドバイスを活用し、現状を振り返りながら、なんとか対応していきます。その後、経験した事例がどういったものであったか言語化し、振り返ります。そしてその振り返りを踏まえて、自分なりの新たな実践の理論を紡ぎ出し、次に向けた課題を認識します。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第168回

ユマニチュードについて 後編

前回、認知症ケアに必要な技法であるユマニチュードの4つの柱についてお話をしました。4つの柱とはケアを受ける人に対して「見る」「話す」「触れる」「立つ」という行動を通して“わたしはあなた

を大切に思っていること”を相手に伝えるものです。そしてケアを始める前から終わるまでを5つのステップに分けて、それぞれのステップで行うことを具体的に定めています。5つのステップでは4つの柱と組み合わせることで、あなたを大切に思っている気持ちがより伝わりやすくなります。以下は各ステップの内容です。

ステップ1では、自分が来たことを伝え、利用者のプライベートな空間に入ることへの了承を得ることから始まります。ステップ2では、利用者の方に対し、ケアを行う前の挨拶を行います。ケアの合意を得るプロセスです。ステップ3では、「あなたを大切に思っている」ということがきちんと伝わるように、継続的にメッセージを送ります。ステップ4では、ケアを施した後によい感情と記憶を残してもらうことができるようにその日のケアを振り返ります。ステップ5では、次のケアを示唆する言葉をかけて、リラックスした状態でケアを受け入れてもらうようにします。

ユマニチュードとは、ケアを受ける側とケアする側が「よかった」と感じられる介護を目的とするものです。

作業療法士 長岡佳奈江



かしま荘通信

車椅子「青い鳥」寄贈式

2月15日(土)



2月15日(土)、平工業高等学校生徒会様より「青い鳥第47号」となる車椅子を寄贈いただきました。

また「ふるさと」や「赤とんぼ」等のハンドベル演奏も披露くださり、利用者様たちも口ずさんで楽しんでおられました。



医療技術部ホームページを
開設しました! information



このたび、かしま病院の医療技術部を紹介するホームページを開設いたしました!

部署の紹介や、技師のブログ、募集要項などが掲載されています! QRからぜひご覧ください!

